

視 察 報 告 書

報告者氏名：松岡和行

委員会名：環境教育常任委員会

期 間：令和7年10月21日（火）～23日（木）

視察都市等及び視察項目：

1. 伊勢原市：教材費等学校徴収金の公会計化について
2. 北九州市：博物館のリニューアルについて
3. 清須市：国の補助金を活用した学校体育館の空調設備整備事業について

所 感 等：

1. 伊勢原市：教材費等学校徴収金の公会計化について

①公会計導入の経緯

公会計導入以前（令和6年度まで）

- ・教材費等は、学校給食費又は牛乳代と合わせて、中学校は年5回、小学校は年6回、口座振替により保護者から徴収。また、一部の教材購入費用を現金で徴収している学校もあった。
- ・口座振替手数料は市が負担していたが、経費削減のため手数料の減額に応じていたJAと信用金庫1行に保護者が口座を開設する必要があった。
- ・保護者は、振替時に資金を移す等の手間があった。
- ・給食費等の徴収や支払事務に費やされる時間数は、1校当たり年間約173時間と試算。完納までに時間がかかるケースもあった。

導入経緯

- ・当初、令和9年度からの学校給食費の公会計化を予定していたが、教員の働き方改革の推進、保護者の利便性の向上を図るため、計画を前倒しし令和7年度からの小学校給食費の公会計導入を目指すこととするが、学校給食費だけ公会計化しても教材費等の徴収が学校に残るため、先進市の視察を行い、教材費等を含めた公会計化の方向で準備を進める（令和6年1月）。

②教材費等の公会計化

特徴

ア 徴収方法

- ・給食費と教材費等を合わせた額を年6回に分けて徴収。
- ・学校の裁量を最大限尊重できるように、保護者への納入通知は予定額で通知し、保護者は予定額を6等分した額を1～5期にかけて納入。
- ・学校からの購入実績の報告に応じて第6期で精算（減額等）。

イ 学校の裁量の尊重

- ・前年度までの実績を考慮して校長会が教材の上限額を設定。
- ・教員が使いたい教材を各学校が予算の範囲内で学期毎に選定、発注、使用。

ウ 予算配分

- ・予算決算会計規則により小中学校長に予算を分配することができることから、消耗品費等の一部は学校に分配し予算執行していた。

エ 予算執行

- ・教材は、納品後、各学校が検収し、請求書等を教育委員会に送付の上、教育委員会分配予算を執行。
- ・分配により予算執行できる範囲が限られていることから、遠足・校外学習等の事業執行に要する費用は、負担金、補助及び交付金として学校に交付し、事業執行から支払いまでを学校で行い、実績報告により精算。

対象外

- ・PTA会費、同窓会費、部活動費、事業者が徴収するもの（修学旅行費用）等。

予算要求から精算までの流れ

前年度	学校	①小中校長会が教材の上限を設定。 ②上限額の範囲内で予算要望。
	市	③当初予算に予算要求 ④予算承認
当該年度	市	⑤予算分配・示達
	学校	⑥発注、交付申請 ⑦納品、事業実施
	市	⑧年間納入予定額決定通知（6期：奇数月）
	保護者	⑨納付（口座振替・コンビニ支払等）
	市	⑩予算執行（支払）
	学校	⑪実績報告（購入者、購入額）

市 ⑫集約
⑬精算通知（3月）

予算執行

ア 教材費等の予算科目等

a 需用費・消耗品費

- ・小学校：教材費、防災備蓄品費
- ・中学校：教材費、補助材料費、模擬試験費、楽器購入費、防災備蓄品費、消耗品費

b 負担金、補助及び交付金

- ・遠足・校外活動に関する経費、授業学習に関する経費
- ・卒業アルバム制作に関する経費
- ・修学旅行に関する経費、文化・芸術鑑賞に関する経費、
- ・キャンプに関する経費、特別支援級活動（宿泊事業等）に関する経費
- ・文化活動、学年活動に関する経費、生徒会活動に関する経費
- ・証明等写真撮影、その他教育活動に必要な経費

決算

ア 令和6年度決算

需用費・印刷製本費 311,740円

内訳 納入通知書：106,590円、窓付封筒：158,950円

口座振替依頼書：46,200円

役務費・手数料 4,545,200円

内訳 Web 口座振替対応用：3,302,200円 口座振替振込手数料（1行）：33,000円 口座振替システム追加費用：1,210,000円

導入効果（教職員の在校等時間の超過勤務割合及び平均時間数の推移）

ア 45時間以上割合

小学校	R6	35.0%	R7	31.8%	3.2%減
-----	----	-------	----	-------	-------

中学校		60.6%		54.7%	5.9%減
-----	--	-------	--	-------	-------

イ 平均時間（9月まで）

小学校	R6	31.7h	R7	29.3h	2.4時間減
-----	----	-------	----	-------	--------

中学校		44.6h		43.9h	0.7時間減
-----	--	-------	--	-------	--------

課題

- ・第6期で精算するため、2月中旬には学校から実績を提出させる必要があるが、提出後に事業を実施する場合の対応。
- ・児童生徒の転出時に教材等の実績を把握できていないため精算に時間を要する。

その他

- これまで、全小中学校で教材費等の一部を給食費又は牛乳代と一緒に口座振替で徴収しており、これをベースに制度設計を進めることができたため、大きな混乱なく導入できた。
- 両校長会とも校長間の情報共有、意思疎通等が進んでおり、また、事務局と校長会との意思疎通も迅速にできたことから、短時間で意見交換等をしながら制度設計できた。
- 市の規模が小さく、学籍、就学援助、教職員人事、校長会、給食等の業務を1課で担っていることから、市役所内の他課等との調整に時間を費やす必要が少なかったため短時間で導入できた。

所感

伊勢原市の場合、小中学校合わせて14校と少なく、また、令和7年度からの小学校給食費の公会計導入を目指していたが、給食費だけ公会計化しても教材費の徴収が学校に残るため、先進市の視察を行い、教材費等を含めた公会計化の準備を進め、実行しました。

教職員の働き方改革の推進のため、事務処理が行政側に移行したことにより、行政側の負担は確かに年度当初及び期末には業務が多忙化になると思われませんが、教員の負担軽減は、超過勤務時間の減少や、滞納者への督促等の事務がなくなり、一定の効果があつたものと思われま

す。本市の場合、小中学校67校あり、伊勢原市とは規模が異なりますが、教員の働き方改革の推進を考えると、公会計化は早期の導入が必要であると思います。同規模の先進市の視察を行い、導入するべきと思います。



2. 北九州市：博物館のリニューアルについて

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、充実した貴重な歴史資料をはじめ、自然と人間のいのちの歩みを壮大なスケールで展示している。平成25年と令和5年にリニューアルオープンした。

①基本方針

「いのちのたび」をコンセプトとして、生命の進化の道筋を自然と人との両面から展示解説するとともに、未来に向けて私たちの生き方を考える博物館とする。

《博物館の目指す方向性》

- ・知的アクセス権を保障する博物館
- ・セカンドスクールとしての博物館
- ・研究の成果を教育普及に生かす博物館

②展示内容

自然史ゾーン	エンバイラマ館（約1,000㎡）動植物を再現展示
	アースモール（約1,800㎡）地球の誕生から現在
	自然発見館（約580㎡）地域の自然をジオラマ
歴史ゾーン	カルチャーモール（約160㎡）山車や山笠を展示
	テーマ館（約1,000㎡）北九州の歴史を紹介
	探求館（約300㎡）大型展示空間

③入館者内訳（令和5年度）

開館日数	合計	一般	高校生・大学生	小中学生	未就学児
355日	431,278人	202,696人	16,033人	114,470人	98,079人

④リニューアル

ア．自然史ゾーンリニューアル

これまでに収集した標本をできるだけ多く常設展示すべく、リニューアルを実施した。自然発見館に北九州の自然について最新の情報を伝えるコーナーを新設するとともに、それぞれテーマを設定した「ぽけっとミュージアム」2か所の展示を改修し、実物資料の展示を大幅に増量した。

イ．歴史ゾーンリニューアル

- ヒストリーアートギャラリーの新設
- 北九州市のあゆみコーナーの新設
- むかしの時代にタイムトリップ！バナーの設置
- 重留遺跡コーナー再整備
- 平安・鎌倉・室町時代の北九州入口部再構成
- 江戸時代の北九州交通ゾーン再整備
- 茅葺屋根の葺き替え

民家内部

⑤リニューアル時の最重要視したコンセプト

自然史 超時空間ミュージアム 地球の歴史

歴史 ドラマチックミュージアム 展示替え 日本の文化を紹介
北九州を紹介 インバウンド対応

⑥年間来館者数の維持管理

令和6年度は47万人 特別展を充実し年3回開催。3年前から企画。
市内外の小中学生に一人ひとりにPRチラシ配布。広島や中国四国方面へ
修学旅行誘致。

⑦運営管理費（約3億7,600万円）と入場料等収入（2億4,800万円）

市の持ち出し金額（1億2,800万円）

所感

北九州市の「いのちのたび博物館」には、とても驚きました。入口を入
ってすぐにアースモールがあり、古生代や中生代、新生代と進化の歩みを
たどると、数多くの恐竜の化石が所狭しと展示が続き、見ごたえがありま
した。また、エンバイラマ館では、ジオラマで恐竜を再現していて、恐竜
のテーマパークのような展示がされていました。来館者の興味を持たせる
ように工夫され、入館料が多少高くとも良いと私自身思いました。

博物館の担当者からは、リニューアルの主な課題について説明があり、
まず、市民ニーズの把握が必要で、既存の展示とのバランス、そして作業
中をSNSで発信していくことが大切であると伺いました。

本市も常設展示室の全面改修を計画しており、マンモスが複数展示予定
と聞いていますが、体験型の展示を数多く配置し、市民ニーズに応えるよ
う計画する方向に行くべきと思いました。



3. 清須市：国の補助金を活用した学校体育館の空調設備整備事業について

屋内体育施設空調設備について

清須市では、近年の災害的猛暑から児童・生徒を守るため、また、避難所として良好な生活環境を確保する必要があることから、災害に強いとされているLPガスを用いた空調設備及び発電設備を導入した。

1. 整備費用

整備設置工事には、国の外郭団体のLPガス振興センターの『災害バルク補助金』を活用した。

工事費	: 1,044,545,000 円
補助対象経費	: 782,453,000 円
補助金額	: 391,226,000 円

【参考】

実施設計費	: 20,900,000 円
監理費	: 26,400,000 円

2. 整備に向けたスケジュール

令和3年	実施計画	補助金交付申請
令和4年	5月	補助金交付決定
	6月	工事、監理契約締結
令和5年	1月	竣工

3. ランニングコスト

LPガス	東邦液化ガスと随意契約	令和7年度単価 : 341.0 円/m ³
メンテナンス	東邦ガスと随意契約 (長期)	8,208,000 円 (60 か月)

4. 避難所として

最低でも3日間は、LPガスの充填がなくともエアコン、照明(半分)、災害用コンセントの利用が可能。

ガスバルクには付帯設備としてガス栓ボックスを設けているため、炊き出しに活用することができる。

所感

清須市は、小学校8校の体育館と中学校4校の体育館及び武道場(1校)に『災害バルク補助金』を活用し導入し、12校一括で工事をしました。

同市の体育館及び武道場はすべて、主要構造はRC造(一部鉄骨)で建造されており、エアコンの効率は本市の鉄骨造体育館と比べて良いと思われます。

同市が補助金申請をした当時は、導入した補助メニューが最良であり、最大限利用しました。また、ランニングコストの低さも導入を決定した理

由と聞きました。

学校体育館に空調設備導入の成功要因は、市長の強い思いれによるトップダウンがあったと伺いました。また、防災訓練で、体育館が夏でもできるようになったと、市民にも好評であると聞きました。

本市の場合、中学校2校の体育館に市債を活用し、令和7年度に整備を進め、令和8年度より残る市内全67校の体育館に4か年計画で整備をする予定です。基本的には電気式（EHP）＋LPガス発電機の設置で進める方針であり、ライフライン断絶時にも3日間程度、空調の使用が可能であると聞いています。ただ、清須市と違い、体育館のほとんどが鉄骨造であるため、エアコン効率は弱いのではないかと危惧します。

体育館の空調設備導入に関しては、昨今の猛暑状態を考えると、1年でも早く導入を進め、市民の安心安全を図るべきと改めて強く思われました。

